

## ALB BiH NFFIS & NbS for DRR/Eco-DRR Newsletter

-アルバニア国 国家森林火災情報システム(NFFIS)と自然を基盤とした解決策を通じた災害リスク削減(NbS-DRR)実施能力向上プロジェクト

-ボスニア・ヘルツェゴビナ国 国家森林火災情報システム(NFFIS)とEco-DRRによる災害リスク削減のための能力強化プロジェクト  
プロジェクト実施期間: 2024年6月～2029年6月

本プロジェクトの目的は、森林火災及びその他自然災害の防災・減災にかかる政府関係者の能力がNFFIS及び生態系を活用した防災・減災(NbS for DRR/Eco-DRR)の導入を通じて強化されることです。Vol2では、2024年6-12月の活動を報告いたします。

### 本邦研修の実施



本プロジェクトでは先行するコソボ・モンテネグロプロジェクトと合同で2024年10月に本邦研修を実施しました。

本邦研修ではプロジェクト関係者に対し、各分野における日本国内の取り組みを紹介し、日本における防災技術、防災政策策定及び実施のプロセスおよび中央政府と地方自治体の役割分担を理解し、4カ国における防災減災の強化に寄与することを目的としています。今回はコソボから3名、モンテネグロから3名、アルバニアから8名、ボスニア・ヘルツェゴビナから6名の合計20名の研修員が参加しました。

足尾銅山での環境学習や湘南海岸林の視察など、現地視察も多く盛り込まれ、有意義な研修内容であったと研修生からコメントが寄せられました。

また、最終日の研修報告会及び閉講式にはアルバニア大使が参加され、他国の発表を含め、今回の研修内容に興味深く傾聴し、研修を通じて得られた知見の今後の展開に期待している様子でした。

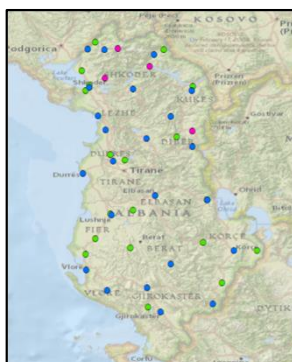
<https://www.facebook.com/share/p/RtJ7p4DACGvhZKNM/>

### NFFIS 情報収集開始！！ Fire weather Indexとは？

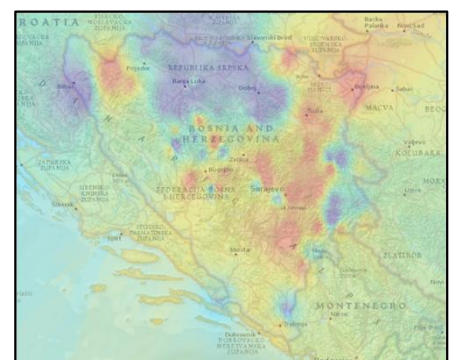
NFFIS (National Forest Fire Information System - 国家森林火災情報システム) は、森林火災の予防と早期警戒のための統合Web-GISシステムで、関連機関間の情報共有を促進します。早期警戒のためにはFire Weather Index(FWI:火災気象指数)と呼ばれる着火した際の延焼しやすさを示す指数の算出が必要になります。

FWIの算出には各国に設置されるAutomatic Weather Station(AWS:自動気象ステーション)から24時間降雨量、風速、気温、湿度の4つのパラメータを取り出し、NFFIS内で算出します。

9月、11月の渡航ではアルバニア及びボスニア・ヘルツェゴビナ両国の気象関連機関を訪問し、AWSの位置情報や稼働状況、取得パラメータの確認を進めています。



←AWS位置情報  
(アルバニア)



FWIイメージ  
(ボスニア・ヘルツェゴビナ)



写真上：湘南海岸林の視察  
写真下：足尾銅山の視察

## 第1回TCG開催

ボスニア・ヘルツェゴビナでは、2024年11月29日、保安省(MoS)のDr.Samir.Agić議長のもと、アルバニアでは、2024年12月5日、国家市民保護庁(NCPA)のDr. Adisa Bala議長のもと、JICAプロジェクト専門家を含めた関係機関が参加して、第一回 Technical Coordination Group(TCG)※ 会議がそれぞれ開催されました。プロジェクトの概要及びこれまでの活動内容が説明され、今後の進め方に関する質疑や議論が交わされ、具体的なプロジェクト活動の内容が承認されました。また、2024年10月に実施された本邦研修の報告も本邦研修参加者から行われました。

※TCGとは、活動内容の協議・決定、進捗確認等を行い、現場活動の具体的なアプローチを決定する場です。

## アルバニア NbS for DRR(成果2)



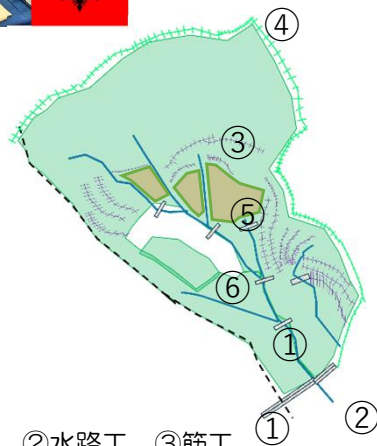
アルバニアではNbS for DRR実施場所としてポビラ湖集水域で2つのパイロット候補地が選定されました。ここでは土壌侵食防止のためのNbS for DRR活動として、ガリープラグの設置や生垣の植樹、植林等が実施される予定です。

今後は堆砂や濁度に関する詳細調査、適切な植林樹種の選定や植林方法の調査、再委託候補先の選定を進めていきます。

赤枠：ポビラ集水域  
黄色：パイロット候補地

構想図

- ①ガリープラグ、②水路工、③筋工  
④生垣、⑤伏工、⑥植林



## ボスニアヘルツェゴビナ Eco-DRR(成果2)

ボスニア・ヘルツェゴビナでは、現地調査もふまえて提案したジェリエズニツァ川を対象に洪水予測モデルとして、RRI (Rainfall - Runoff - Inundation) モデルを採用し、今後Eco-DRR活動を実施していくことがTCGにて合意されました。

今後、RRIモデルを活用して洪水浸水マップ (Flood inundation map) に加え、避難先等を示した洪水緊急対応マップ (flood emergency response map) を作成します。また、同国では市民向けのマップは未整備であるため、仙台防災枠組で述べられている、「一般市民、災害リスクに直面している地域コミュニティ」を対象とし、「理解し易さ」「使用可能」というキーワードに沿った地図の策定を実施する予定です。



ジェリエズニツァ川位置

降雨(Rainfall) - 流出 (Runoff) - 氾濫 (Inundation) → RRIモデル

- 土木研究所 (ICHARM) が開発・公開 (2016年5月～)
- 降雨情報を活用し、河川流量から洪水氾濫までを一体的に精度良く解析できる

AWS (Automatic Weather Station) : 気象観測を目的とする自動気象観測システム  
NbS (Nature based Solution) : 自然を基盤とした解決策  
DRR (Disaster Risk Reduction) : 新たな災害リスクを防いだり、既存の災害リスクを軽減すること

Facebook  
フォロー  
ください!



プロジェクトFacebook  
<https://www.facebook.com/ALBBiHNFFISandEcoNbSDRRproject>



アルバニア国家市民保護庁  
National Civil Protection  
Agency(NCPA)



ボスニア・ヘルツェゴ  
ビナ保安省  
Ministry of  
Security (MoS)



国際協力機構  
Japan International  
Cooperation  
Agency(JICA)